

多摩大学経営情報学部 紀要要綱

この要綱は、紀要に関する経営情報学部内部の要綱である。

1. 多摩大学における紀要の意味

1.1. 紀要の名称

本学経営情報学部の紀要は和名『経営情報研究 多摩大学研究紀要』、英名“Tama University Journal of Management and Information Sciences”とする。

1.2. 多摩大学における紀要の目的

紀要とは、経営情報学部専任教職員・非常勤教職員、経営情報学研究科専任教職員・非常勤教職員の「広い意味での経営情報学」に関する研究業績を公開・活用することを目的とする。

紀要発行の目的は、広い意味で経営情報学の研究に貢献する、又は、多摩大学経営情報学部の研究ブランディングに資する研究に貢献することである。

※1. ここで言う「広い意味での経営情報学」とは、経営学又は情報学、さらにはその応用領域や学域を拡大する試みを含むものとする。

※2. ここで言う「研究ブランディング」とは、個人の専門研究に留まらず、広い意味での経営情報学の可能性、又は多摩大学ならではの社会課題解決を示す成果を意味する。

1.3. 紀要内容の区分

紀要の内容は、特集論説、研究論文、実践知論文、研究ノート、その他、共同研究報告に区分する。

2. 紀要論文の募集

2.1. 紀要論文投稿者の資格

紀要論文の投稿資格者は原則として多摩大学経営情報学部、大学院の常勤・非常勤教職員である。但し特集論説の依頼原稿は、前記を踏まえながらも、これに縛られない。

投稿原稿の筆頭論者が本学部学生、大学院学生である場合は、投稿者は専任教員でなければならない。

外部投稿も可能であるが、筆頭論者は専任教員とする。

2.2. 投稿申し込み

(1) 投稿希望者は、投稿申込書を〆切の約1ヶ月前に設定された締め切り日までに、研究活性化委員会に提出する。

(2) 原稿の投稿方法、執筆フォーマットは、別途定められた「紀要投稿規則」並びに「執筆要綱」に従う。

表. 原稿種類によるエントリー、査読の有無

	エントリー要	査読要
特集論説	×	×
研究論文	○	○
実践知論文	○	○
研究ノート	○	×
その他 ・教育実践報告 ・研究レビュー ・資料等	○	×
・書評	×	×
共同研究報告	○	×

3. 紀要論文の査読

3.1. 査読対象・回数

研究論文、実践知論文については査読を行う。初回査読で修正要請があった場合、もう一度査読を行い、結果を通知する。

3.2. 査読体制

査読は2名により行う。原則、以下のどちらかの形態で行う。

- ①研究活性化委員会メンバー1名（取りまとめ者、査読者）、本学専任教員1名（査読者）
- ②研究活性化委員会メンバー1名（取りまとめ者）、本学専任教員2名（査読者）

なお、査読者を①②以外に依頼することは可能とする。

それぞれ査読結果は、査読者が査読評価書に明記し、取りまとめ者がそれらを1枚の査読評価書に取りまとめる。それを研究活性化委員会に提出する。

3.3. 査読結果の通知

研究活性化委員会は、査読結果を投稿者に通知する。結果区分は以下の通り。

- ①原稿通り掲載する。
- ②指摘した修正等の条件を満たした上で掲載する。
- ③研究ノートとしての掲載を勧める。
- ④論文としての掲載は認められない。

修正要請を求められた投稿者は、修正箇所を検討の上、再提出を行う。

通知に対して、投稿者は取り下げを行うことができる。

4. 紀要の公開について

紀要は印刷を行い、多摩大学教職員に配布する。また、多摩大学学術情報リポジトリに原則として4月に掲載する。

附則

2021年4月1日から実施する。

2021年6月一部改訂

2021年7月一部改訂